

第74回 学術講演会

日時 平成30年6月7日(木)
午後6時～8時

場所 秋田キャッスルホテル
4階「放光の間」

高齢者医療を考える

代表世話人・座長

秋田大学大学院医学系研究科
内分泌・代謝・老年内科学教授

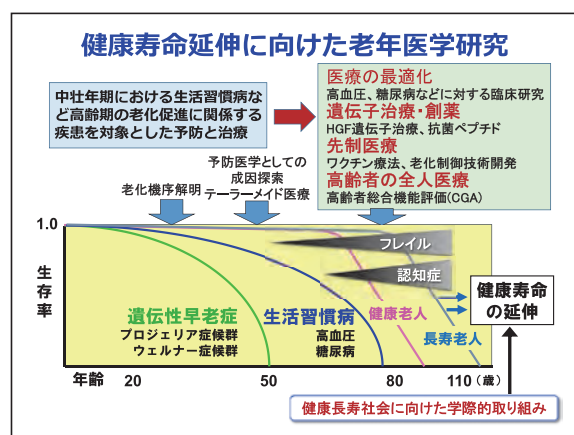
山田 祐一郎 先生

講演 I.

「2025年問題を切り拓く老年医学： 大学での老年医学」

大阪大学大学院医学系研究科
老年総合内科学教授

楽木 宏実 先生



講演 II.

「2型糖尿病治療のブレイクスルー」

関西電力病院総長
関西電力医学研究所所長

清野 裕 先生



後援 / 秋 田 県 医 師 会

・本会は、日本医師会生涯教育認定講座(2単位)が取得できます。カリキュラムコード: 73(慢性疾患・複合疾患の管理)、76(糖尿病)
・本会は、秋田県糖尿病療養指導士(CDE-AKITA)『認定更新のための研修会』として(3単位)が認定されております。
・本会は、日本糖尿病協会「療養指導医取得のための講習会」「登録歯科医のための講習会」として承認を受けております。

講演I：

「2025年問題を切り拓く老年医学：大学での老年医学」

大阪大学大学院医学系研究科
老年総合内科学教授

楽 木 宏 実 先 生



講演II：

「2型糖尿病治療のブレイクスルー」

関西電力病院総長／関西電力医学研究所所長

清 野 裕 先生



プロフィール

1984年3月 大阪大学医学部 卒業
1985年7月 桜橋渡辺病院循環器内科 医員
1989年9月 米国Harvard大学プリガム・アンド・ウイミンズ病院
内科研究員
1990年7月 米国Stanford大学心臓血管内科研究員
(米国留学中はProf. Dzau (ザウ) に師事)
1993年8月 大阪大学医学部 老年病医学 助手
2002年10月 大阪大学大学院医学系研究科加齢医学講師
2004年2月 大阪大学大学院医学系研究科加齢医学助教授
2007年11月 大阪大学大学院医学系研究科内科学講座
(老年・腎臓内科) 教授
(2015年10月に内科学再編に伴う改組にて
老年・総合内科)
2014年4月 大阪大学医学部附属病院副病院長 (兼任)
現在に至る

受賞：

2011年 American Heart Association, Top Paper
published in Hypertension for 2010, Clinical Science
Category
2011年 第2回 Hypertension Research Award 優秀賞

学会活動：

日本老年医学会 (理事長 2015年6月～)
日本高血圧学会 (理事)
日本心血管内分泌代謝学会 (理事)

1967年 京都大学医学部卒業
1977～1979年
ワシントン大学 (シアトル) 代謝・内分泌科
(Prof. Daniel Porte Jr.) 客員研究員
1996年 京都大学大学院医学研究科糖尿病・栄養内科学教授
2004年 関西電力病院病院長 (～2016年)
2004年 京都大学名誉教授
2015年 関西電力医学研究所所長
2016年 関西電力病院総長
現在に至る

受賞：

国際糖尿病連合「IDF Education and Integrated Care Award」(2017)
国際糖尿病連合「IDF Lifetime Achievement Award」(2017)
米国糖尿病学会「2016 Harold Rifkin Award for Distinguished
Service in the Cause of Diabetes」
国際糖尿病連合「IDF Regional Award 2014」
米国内分泌学会「International Excellence in
Endocrinology Award」(2014)
エルウィン・フォン・ベルツ賞 1等賞 (2013)
日本医師会医学賞 (2013)
ノバルティス国際糖尿病賞 (2009)
日本糖尿病学会「ハーゲドーン賞」(1998)
日本病態栄養学会学会賞「アグライア賞」(2013)
日本栄養・食糧学会学会賞 (1999)
糖尿病療養指導鈴木万平賞 (2016)、日本体質医学会賞 (2016)

学会活動：

アジア糖尿病学会 (AASD) 理事長
日本糖尿病協会理事長、日本病態栄養学会理事長
日本栄養療法協議会会長、日本糖尿病対策推進会議副会長 など

「2025年問題を切り拓く老年医学：大学での老年医学」

大阪大学大学院医学系研究科
老年総合内科学教授

楽 木 宏 実

2025年には団塊の世代がすべて75歳以上となり、社会保障を含めて様々な社会的問題が顕在化するとされ、2025年問題と呼ばれて介護保険の導入に始まる様々な対策がなされている。在宅医療の推進もその一つである。この問題はその後数十年にわたり直面し続けるものであり、社会保障制度による対策に加え、様々な分野での技術革新や、医療や介護のあり方のパラダイムシフトが求められる。大学における老年医学には、そのような技術革新や新しいコンセプトの実装に向けた基盤研究、病院全体における高齢者の診療における支援、高齢者やその家族のニーズに合った医療・介護の提供のための多職種連携の中心としての役割、医学生教育や医師の生涯教育など幅広い活動が求められる。大学のように臓器別さらには疾患別の専門分化が進んだ組織においてこそその役割は大きいと考える。具体的にどのような専門性を持った教育、診療、研究があるのか、老年医学を専門とする大学講座においても置かれた状況により様々である。私の所属する大阪大学は、高度医療、先進医療、新しい医療の開発を第一の

重点項目として各診療科が努力しており、老年医学分野における先進医療の開発も必須である。現在、血管再生や潰瘍治療を対象とした遺伝子治療、抗菌活性と血管新生作用を持つペプチド薬品の開発、生活習慣病に対するワクチン療法の開発を手掛けている。今後の課題としては、抗加齢あるいは老化制御に関わる薬品やサプリメントの開発、AIを応用した重症化予測や医療・介護安全にかかわるITの開発、医療・介護ロボット、認知症早期診断装置やバイオマーカーの探索なども視野に入れるべきと考えている。このような新規医療の開発や技術革新において、高齢者の特徴を理解し、それを総体として捉える評価系を持つことが老年医学を専門とするものの強みである。既に実地診療に応用可能な老年医学的評価系も注目されている。高齢者総合機能評価の外科手術適応や術式選択への応用はその一つで、サルコペニアやフレイルといった概念の導入により、より科学的に介入ポイントを検索できる時代になりつつあると感じている。講演では、老年医学が果たすべき健康長寿を支える基盤研究の一端を含めて私の所属教室並びに日本老年医学会の取り組みを紹介したい。

「2型糖尿病治療のブレイクスルー」

関西電力病院総長／関西電力医学研究所所長

清 野 裕

我が国の糖尿病患者数は依然増加を続けており、うち65歳以上の割合が7割近くを占めることから、高齢者糖尿病の治療は喫緊の課題である。高齢者糖尿病の治療は患者の病態に応じた管理目標、低血糖の回避、体重の適正な管理（体重減少でなく体組成）が重要である。

このような状況を踏まえて、本セミナーでは糖尿病治療における食事・運動療法の重要性や、最新の知見や新しい糖尿病治療薬の利点・問題点などについて述べたい。